

活動を開始したサイエンス・ステーション

NPO法人サイエンス・ステーション理事
理学系研究科天文学専攻修士2年
岡島礼奈

「科学への好奇心を持ち 続ける社会を作りたい」

最近の国立天文台の調査によると、小学生の4割が、「太陽が地球の周りを回っている」と答えたそうです。このことを由々しき問題であると捉えるか、そんなこと

など知らなくても困らないと捉えるかは各人いろいろでしょう。しかし、私たちにとっては、その4割の子供達が身近な「自然」への興味を持っていないことが惜しくてなりません。なにげない現象の向こうに、精密で深遠な仕組みがあり、その仕組みを知りたい、発

見したいと探求することは非常に面白いからです。その面白いと思う心こそ、科学への第一歩と考えるからです。

その第一歩を幸運にも持てた人と持てなかった人の違いは、自分の近くに科学に興味を持たせてくれる人がいたとか、たまたま家に

そういった本があったとか、些細なことのように思います。

科学への興味を持つことができるきっかけを作り、多くの人に身近な「自然」への興味を持ってもらいたい。また、その仕組みを探る楽しさを知ってもらい、科学への好奇心を持ち続けていけるような魅力ある社会を作りたい。科学に携わる人なら誰しも持っている気持ちではないかと思えます。

「研究成果をわかりやすく社会に伝えてこそ、本物の研究者」

ヨーロッパでは、カフェやサロンでお茶を飲みながら、第一線の研究者が市民を対象にして最先端の研究テーマをわかりやすく、ユーモアを交えながら話をする機会がたびたび設けられているそうです。その結果、市民が科学への理解と関心を深め、それが社会全体に及ぶようになっていくと聞きます。しかし、今の日本には、研究者が一般の人と研究内容を話し合うといった機会はほとんどありません。

私がアメリカを旅行したときに感じたことは、新聞の科学記事の扱いの大きさと、市民生活における科学への関心の高さです。これは、大学や研究所がそれぞれ広報室を持っていて、最先端の研究内容を広く社会に発信していること、社会貢献活動が実績として認められるシステムがあり、研究者が社

会に対して積極的に広報普及活動を行っていることなどが理由になっていると思われそうです。このようなシステムが日本にも広がれば、研究者が市民にもう少し身近な存在になり、今後の科学研究を進めるために大切な土台となっていくに違いありません。

「サイエンス・ステーションはこんなことをやっています」

このような願いを持って、天文学教育研究センターの吉井譲教授を理事長としたNPO法人サイエンス・ステーションは2004年3月に誕生しました。コアとなるメンバーの多くは研究者の卵の大学生、大学院生です。

具体的な活動内容は多岐にわたりますが、なかでも中心となるのが「出前授業」です。これはサイエンス・ステーションのメンバーが各高校を訪問し、自身の研究や大学生活などについての授業を行うもので、今年は5校で実施します。現在研究修行中のメンバーが話をしますので、先生方の話とは一味違った、臨場感あふれる授業ができていると思います。実際、授業の後に熱心に質問してくる生徒も数多くいて、成果を肌で感じることができます。自分の研究を高校生に理解しやすいように話すことは決して楽ではありませんが、自分自身の研究を見つめなおす良い機会となっています。現在のと

ころ、出前先が首都圏に偏っていますが、首都圏以外の地域でも順次実施する予定です。

「出前授業」以外にも、天文センター木曾観測所などが行っているサイエンス・パートナーシップ企画に協力したり、独自教材の開発に取り組んだり、みな張り切って活動しています。

「仲間募集中」

先にも述べましたが、サイエンス・ステーションは大学生・大学院生が主体の若い団体です。もともとは天文センター木曾観測所が毎年行っている高校生向け科学セミナー「銀河学校」に参加した者が中心となって立ち上げた団体ですが、今では物理や化学を専攻する者もメンバーに加わっています。今後はさらに様々な分野の研究者や研究者の卵の参加を得て、やがては科学全分野を取り扱えるような層の厚みが持てればと思っています。

この記事をご覧になった大学生・大学院生・スタッフの方は、ぜひサイエンス・ステーションのホームページ

<http://www.sciencestation.jp>

にアクセスしてみてください。

私たちの活動のようすと、初めて出会った科学の面白さにワクワクしている高校生の姿が生き生きと映し出されています。興味を持たれた方はお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

(裏表紙に写真があります)



サイエンス・ステーションの活動

(詳しくは本文 p.3 参照)



▲ 都立立川高校で7月1日に実施した出前授業の様子。この日は比較的小人数を対象にアットホームな雰囲気での授業が行われた。写真は大学での化学について講演する化学科4年の大谷陽祐くん。



▲ 天文センター木曽観測所が主催する銀河学校をサイエンスステーションが共催。3月26日から3泊4日のスケジュールで始まった銀河学校2003で、シュミット望遠鏡を用いた観測実習に参加し、実習指導と講演を行った。



▲ 文教大学で8月2日に行われた小中理科教員研修にサイエンスステーションから講師を派遣。最新の天文学成果を講演した他、オリジナル教材を使った実習などを行った。写真は実習指導中の天文センター助手でサイエンスステーション副理事長の宮田隆志。



▲ 都立青山高校で6月23日に実施した出前授業の様子。写真は宇宙X線の観測的研究について講演する物理学専攻修士課程2年の二河久子さん。当日はこの他にナノテクノロジーについての講演もあり約280名の生徒が出席した。

